

日本ナレッジ・マネジメント学会  
会員総会

- I. 日時 平成27年3月21日(土)  
午後1時から1時30分まで
- II. 場所 専修大学神田キャンパス2号館1階101教室
- III. 議題 第一号議案 新規理事承認の件(資料一)  
第二号議案 会則変更案承認の件(資料二)  
第三号議案 第十七年度事業報告及び決算案承認の件(資料三)  
第四号議案 第十八年度事業計画案及び予算案承認の件(資料四)
- IV. 報告事項

資料一（第一号議案）

平成 27 年 3 月 21 日

日本ナレッジ・マネジメント学会  
理事の推薦について

常任理事会は、以下の理事候補者を会員総会に推薦する。

■理事

氏 名 小沢 一郎（おざわ いちろう）

所 属 専修大学経営学部教授

昨年来、会則改訂委員会を設置し理事会での議論を経て最終案を上程いたします。本会則改定の目的は、本会が活性化できるよう体制づくりを意図するもので、同時に従来 of 会則における不備をなくそうとするものです。

## 1. ガバナンス

### (1) 理事会による評議員会への報告義務の新設

理事長・理事会の暴走チェックのためガバナンスの仕組みとして、評議員会という第三者を活用すべきと考え、緩やかですが理事会による報告義務を定めました。

### (2) 会長・副会長の総会での選任と理事長による代行規定

会長・副会長は理事の互選によるものから、理事会で選考し総会で選任するものとししました。会長の資格要件から理事であることを外し、広い範囲から選任しようというものです。同時にガバナンスの観点から理事会に出席し発言することができることは維持することにしました。なお会則規定上の顧問が理事会に出席し発言することができることは従来通りです。

また会長に事故あるときは副会長が代行し、両者に事故あるとき理事長が代行する旨明記しました。

## 2. KM学会の目的に加え、方針の新設

本学会の目的を明記した第2条に、最近の社会動向を反映し社会貢献およびコンプライアンスの方針を付け加えました。

## 3. 理事会・常任理事会の効率性・透明性

### (1) 常任理事会の機能

従来から別々の条文となっていた緊急時への対応および人事委員会としての機能を、常任理事会の機能として統合しました。但し次回理事会への報告を義務付けました。なお寄付金の受け入れを常任理事会の業務としていましたが、理事会ないし常任理事会での対応としました。

### (2) 理事会および常任理事会での議事録の明文化

従来議事録は総会における規定しかなかったため、理事会・常任理事会でも明文化しました。

### (3) 定足数規定の導入

従来曖昧になっていた定足数について、決議の有効性をルールで裏打ちする意味で理事会および常任理事会に今回導入しました。委任状での定足数算定を認める一方で、議決はあくまで出席議員の過半数によることは変更しません。

## 4. 会員の退会、除名条項の整備および理事の役職停止条項の新設

### (1) 会費未納

従来、会員の会費未納については「長期にわたり」としか規定していなかった退会要件を「2年」としました。督促はそれまでにしなければならぬので KM学会側の管理体制の整備も同時に必要になります。未納は「うっかり未納」を除き基本的に退会意志の明示と考えるものです。

### (2) 除名の要件新設

会員の退会が会員の意思によるものであることに対して、会員の除名は本人の意志に反しても強制的に会員資格を喪失させることです。従来要件として「本会の名誉を汚す行為をしたとき」だけであったのを、リスクマネジメントの観点から「本会の不利益になる利益相反行為をしたとき」を加えました。

### (3) 除名、資格・役職停止の手続きの明文化

この場合、理事会が事実確認のうえ（必要があれば特別委員会を設置）総会に提案し、総会で決議するというプロセスが取られます。理事会が認定してから総会決議までの間、対象者が理事の場合は直ぐ役職を停止する必要があります。そこで会員資格および役職停止を理事会（ないし常任理事会）が決議できるよう新たに規定を新設しました。当然のことながら、一旦

総会で決議されて会員資格を喪失すれば、役職・理事資格は自動的に喪失することになります。

## 5. 事務局の強化

### (1) 事務局長、事務局、職員の新設

会則上、役員の一員として業務の執行者である事務局長を新たに位置づけ、会員の中から理事長が委嘱することになりました。業務の運営を図るため事務局を設置し職員を雇うことも含め明記しました。これに伴い事務局長および職員を有給とすることができる旨、制定しました。

### (2) 幹事の継続

これまでの議論で、幹事を必要としなかったことで廃止することにしていましたが、今後必要となるケースも考えられることから今回の改定では廃止を取りやめ継続することになりました。今後理事会や活性化委員会（仮称）などでの議論に委ねたいと考えます。

## 6. 理事長による担当理事選任条項の新設

理事長による会務執行の円滑化を図るため、理事の中から事務局担当等など担当理事を選任している現状に鑑み、理事長が必要に応じて担当理事選任を行うことができるよう条項を新設しました。ただし理事会の承認が必要となります。

## 7. その他事項

### (1) 英文名称および略称を新たに明記しました。

### (2) 事業の中に「メールマガジン」を追加しました。

### (3) 用語の統一

「部会」と「研究会」が使われており、これを「研究部会」に統一しました。

## 日本ナレッジ・マネジメント学会 第十七年度事業報告

第十七年度における学会事業の実施内容は以下のとおりである。

### I. 総会

#### ・第十七回会員総会

日 時 平成 26 年 3 月 8 日（土）  
場 所 横浜国立大学経営学部講義棟 1 号館（N3-5）1 階 106 教室  
議 題 第一号議案 新規理事および役職候補者承認の件  
第二号議案 会則変更案承認の件  
第三号議案 第十六年度事業報告及び決算案承認の件  
第四号議案 第十七年度事業計画案承認の件  
第五号議案 第十七年度予算案承認の件  
審議結果 第二号議案の会則変更は、新設された第 18 条 4 項の文中「陪席」は「同席」に変更された。また第五号議案の科目「情報提供費」は「学会誌発行費」に変更された。その他は原案どおり承認された。

### II. 理事会

#### ・第十八回理事会

日 時 平成 26 年 3 月 8 日（土）  
場 所 横浜国立大学国際社会科学部研究棟（N3-2）2 階会議室  
議 題 第一号議案 新規理事および役職候補者承認の件  
第二号議案 会則変更案承認の件  
第三号議案 第十六年度事業報告及び決算案承認の件  
第四号議案 第十七年度事業計画案承認の件  
第五号議案 第十七年度予算案承認の件  
審議結果 第二号議案の会則変更は、新設された第 18 条 4 項の文中「陪席」は「同席」に変更された。また第五号議案の科目「情報提供費」は「学会誌発行費」に変更された。その他は原案どおり承認された。

### III. 年次大会の開催

#### ・第 17 回年次大会の開催

日 時 平成 26 年 3 月 8 日（土）  
場 所 横浜国立大学経営学部講義棟 1 号館（N3-5）1 階 106 教室  
テ ー マ 「経営者の知—ネットサービス型産業化への転換—」  
内 容 1. 基調講演 「ソーシャル・デジタル時代の Coca-Cola Way of Marketing」  
鈴木 祥子氏（日本コカ・コーラ（株）マーケティング & ニュービジネス IMC 副社長）  
2. 特別講演 「M2M 革命と今後の経営」  
安達 一彦氏（（株）インテリジェント ウェイブ 会長）  
討論者： 山崎 秀夫氏（本学会専務理事）  
3. 会員総会  
・ A トラック会場 1 階 107 教室  
前半司会 山崎 秀夫氏（本学会専務理事）  
後半司会 大西 幹弘氏（本学会理事・名城大学教授）  
4. 報告 1：「ネットサービス型産業への転換」

- 小石 裕介氏 ((株) Beat Communication)
5. 報告2 「マイクロソフトのベンチャー支援、ネット起業支援」  
砂金 信一郎氏 ((株) マイクロソフト エバンジェリスト)
  6. 報告3 「ネットサービス型産業化、スマート工業社会時代における新しいKMの課題」  
山崎 秀夫氏 (本学会専務理事)
  7. 報告4 「IBMにおけるネットサービス時代のナレッジ・マネジメント」  
鹽野 敬彦氏 (日本アイ・ビー・エム (株) 人事LK&PD 部長)
  - ・ Bトラック会場 1階106教室  
司会 加藤 鴻介氏 (金沢工業大学教授)
  8. 報告1 「顧客の知とプラットフォームの構築」  
西田 陽介氏((株)日本経済研究所)
  9. 報告2 「企業の社会的価値創造に関する取り組み」  
廣瀬 文乃氏 (一橋大学大学院 ICS 特任講師)
  10. 報告3 「連結化から始める知識創造—ホームページの戦略的活用」  
安部 博文氏 (電気通信大学産学連携センター マネジャー、兼務講師)
  11. パネル討論会 「知識創造企業を目指す組織変革実践とその成果」  
司会：進 博夫氏 (本学会理事・アルシノーバ代表)  
活動趣旨：部会長 高山 千弘氏 (エーザイ (株) 理事 知創部長)  
活動報告：① (株) 長谷川ホンダ販売 ② 日本郵便新潟中央郵便局 (株)  
③ (株) 新潟関屋自動車学校 ④ 日本リファイン (株)  
⑤ (株) ハートビーツ
  12. 閉会挨拶  
久米 克彦氏 (日本ナレッジ・マネジメント学会副理事長)
  13. 懇親会

#### IV. 国際シンポジウム「ナレッジ・マネジメントの新たな展開」の開催

- 日時 平成26年12月3日(水)
- 場所 早稲田大学大隈記念小講堂
- 主催 日本ナレッジ・マネジメント学会、早稲田大学知的資本研究会、WICIジャパン
- 内容
1. 開会の辞 花堂 靖仁 氏 (日本ナレッジ・マネジメント学会理事長)
  2. 基調講演  
「持続的な知識創造への挑戦-クロネコ ヤマトの取り組み」  
有富 慶二氏 (ヤマト福祉財団 理事長)
  3. オープニング・セッション「知識創造の水平線」  
「統合報告におけるナレッジ・マネジメント」  
Prof. Stefano Zambon(Ferrara Univ. Italy、WICI ヨーロッパ会長)  
パネリスト:安部 博文氏 (電気通信大学産学連携センター 特任教授)  
モデレーター 久米 克彦氏 (日本ナレッジ・マネジメント学会副理事長)
  4. セッション1 「ウエアラブル・デバイスの展開と知識創造」  
発題者：「オムロンにおけるウエルネスリンクは何をもたらすか」  
荻原 剛氏 (オムロンヘルスケア (株) デザインコミュニケーション部デザイナー)  
パネリスト：村井 亮 氏 (株式会社 Beat Communication 代表取締役)  
モデレーター 山崎 秀夫 氏 (日本ナレッジ・マネジメント学会専務理事)
  5. セッション2 「統合思考経営と資本概念の再構築」  
発題者：「自社の『資本概念』をどのように形成するのか」  
跡部 博司氏 ((株) ICMG ディレクター)  
パネリスト1：貝沼 直之氏 (株式会社ドンキホーテホールディングス IR 部長)  
パネリスト2：Dr. LAURA GIRELLA, Ca' Foscari University of Venice  
モデレーター 芝坂 佳子氏 (KPMG あずさパートナー、本学会理事)
  6. セッション3 「企業における知識創造への挑戦」  
発題者：「SMEsの組織知形成への挑戦-成果と課題」

- 高山 千弘氏 (エーザイ株式会社 知創部長、本学会理事)  
パネリスト1 : 前川 和也氏 (株式会社ハートビーツ取締役)  
パネリスト2 : 長谷川 光彦氏 (日本リファイン株式会社取締役)  
モデレーター 進 博夫氏 (日本ナレッジ・マネジメント学会理事)
7. モデレーターによる総括パネル
  8. 閉会の辞  
西山 茂 氏 (早稲田大学知的資本研究会代表・大学院商学研究科教授)

## V. 学会誌「ナレッジ・マネジメント研究」の発行

誌 名 ナレッジ・マネジメント研究 2014 年第 12 号

発行日 平成 26 年 3 月 31 日

発行部数 300 部

- 内 容
1. 論文「企業内研究部門の役割と部門トップの認識の変遷 —ある総合電機メーカーの歴史的分析—」  
安田 昌司氏・前川 佳一氏・宮本 琢也氏
  2. 論文「知域知縁のまちづくり：三鷹市のまちづくりに見る市民の知識創造力」  
廣瀬 文乃氏
  3. 論文「ダイバーシティによる知識創造の活性化」  
八代 英美氏
  4. 研究ノート「知と行動の 4 行程」モデルによる知の創造と自己変革の促進  
安部 博文氏
  5. 講演録「企業経営の『型』と『場』」  
久米 克彦氏
  6. 講演録「スマート革命がもたらす創造の経済に日本企業はどう対処するのか」  
山崎 秀夫氏

## VI. 日本ナレッジ・マネジメント学会メールマガジンの発行

### 第 77 号

発行日 平成 26 年 1 月 31 日

- 内 容
1. 第 17 回年次大会のご案内について
  2. 「21 世紀のナレッジマネジメントの展開」の詳細報告
  3. 知の創造研究部会 (第 26 回) の概要報告

### 第 78 号

発行日 平成 26 年 2 月 17 日

- 内 容
1. 第 17 回年次大会のご案内について
  2. 第 17 回年次大会の申込書および年会費請求書を発送しました
  3. 経営関連学会協議会主催の講演会のご案内

### 第 79 号

発行日 平成 26 年 3 月 31 日

- 内 容
1. 第 17 回年次大会を開催—ナレッジ経営の新しい可能性示す—
  2. 日本ナレッジ・マネジメント学会会員総会の報告について

### 第 80 号

発行日 平成 26 年 4 月 30 日

- 内 容
1. 日本ナレッジ・マネジメント学会の理事長を務めるにあたって
  2. 第 17 回年次大会の詳細報告について
  3. 基調講演、特別講演のまとめ：
  4. 基調講演「ソーシャル・デジタル時代の Coca-Cola Way of Marketing」

5. 特別講演「M2M 革命と今後の経営」
6. 「日本ナレッジ・マネジメント学会第 17 回年次大会の詳細報告」
7. 『ナレッジ・マネジメント研究』第 14 号の投稿募集について

#### 第 81 号

発行日 平成 26 年 5 月 30 日

- 内 容
1. 巻頭言—スマート工業社会がもたらす知識理論大混乱の時代にどう対処するか—
  2. 知の創造研究部会主催 6 月 13 日研究会のご案内
  3. 新部会の設立を決定、大企業を SECI モデルで変革
  4. 会員の活動をインタビュー記事で情報発信、6 月号から
  5. 五十嵐寿恵さんの「英国留学たより」
  6. 学会誌『ナレッジ・マネジメント研究』第 14 号の投稿募集について

#### 第 82 号

発行日 平成 25 年 7 月 8 日

- 内 容
1. 故森田松太郎会長追悼特集
  2. 5 月 17 日開催定例理事会のご報告
  3. 巻頭言—暗黙知論の発展的再評価の為に—
  4. 第一回ソーシャルメディア部会開催のご案内
  5. 知の創造研究部会主催 8 月 1 日研究会のご案内
  6. 経営関連学会協議会依頼のアンケート調査について
  7. 梶村さんの「米国・ヨルダン実習たより」
  8. 学会誌『ナレッジ・マネジメント研究』第 14 号の投稿募集について

#### 第 83 号

発行日 平成 26 年 8 月 22 日

- 内 容
1. 巻頭言—知の共有（リスクマネジメント研究部会の 10 年を振り返る）—
  2. 7 月 26 日開催定例理事会のご報告
  3. ソーシャルメディア部会主催 第 1 回  
「次世代ナレッジ・マネジメントカンファレンス」概要報告
  4. 学会誌『ナレッジ・マネジメント研究』第 14 号の投稿募集について

#### 第 84 号

発行日 平成 26 年 9 月 30 日

- 内 容
1. 巻頭言 3 つの国際会議に出席して
  2. 9 月 13 日開催定例理事会のご報告
  3. 知の創造研究部会主催 10 月研究会のご案内
  4. 学会誌『ナレッジ・マネジメント研究』第 14 号の投稿募集について

#### 第 85 号

発行日 平成 26 年 10 月 30 日

- 内 容
1. 巻頭言 「シンガポールを訪問して」
  2. 国際シンポジウム「ナレッジ・マネジメントの新たな展開」開催のご案内
  3. 2015 年 3 月学会大会の報告者募集について
  4. 知の創造研究部会主催 10 月研究会のご案内
  5. 経営関連学会協議会主催第 7 回シンポジウムのお知らせ
  6. 学会誌『ナレッジ・マネジメント研究』第 14 号の投稿募集について
  7. シンガポール出張報告

#### 第 86 号

発行日 平成 26 年 11 月 21 日

- 内 容
1. 国際シンポジウム「ナレッジ・マネジメントの新たな展開」開催のご案内

2. 2015年3月学会大会の報告者募集について
3. 12月5日開催 知の創造研究会（第30回）のお知らせ
4. 学会誌『ナレッジ・マネジメント研究』第14号の投稿再募集について
5. 学会事務局の移転について

#### 第87号

発行日 平成26年12月12日

- 内 容
1. 巻頭言 トヨタのコア・ナレッジ
  2. 国際シンポジウム「ナレッジ・マネジメントの新たな展開」を開催<速報>
  3. 学会誌『ナレッジ・マネジメント研究』第14号の投稿再募集について
  4. 学会事務局の移転について

#### 第88号

発行日 平成26年12月30日

- 内 容
1. 巻頭言 感性マネジメントとイノベーション
  2. 経営関連学会協議会のアンケート調査結果とシンポジウムの概要報告
  3. 学会事務局の移転について

第十七期

# 決算(案)

自 平成26年 1月 1日  
至 平成26年12月31日

日本ナレッジ・マネジメント学会

東京都中央区日本橋室町3丁目1番10号 田中ビル4階  
株式会社日本ビジネスソリューション内

# 貸借対照表

平成26年12月31日 現在

(単位:円)

## 資産の部

### 【流動資産】

現金	507,500
普通預金	154,367
郵便振替口座	<u>41,780</u>

流動資産合計 703,647

資産の部合計 703,647

## 負債の部

仮受金	7,000
未払金	809,810

負債の部合計 816,810

## 正味財産の部

### 【剰余金】

剰余金	-113,163
-----	----------

剰余金合計 -113,163

正味財産の部合計 -113,163

負債及び正味財産の部合計 703,647

# 第十七期収支計算書

平成26年1月1日から12月31日まで

(単位:円)

科	目	
<b>I 収入の部</b>		
1.会費収入		
法人会員	年会費 100千円	1,890,000
個人会員	入会金 5千円	60,000
個人会員	年会費 8千円	920,000
受取利息		156
	当期収入合計 (A)	2,870,156
	前期繰越収支差額	141,606
	収入合計 (B)	3,011,762
<b>II 支出の部</b>		
1.事業費		
研究会費		200,020
大会費		580,000
学会誌発行費		600,814
旅費交通費		100,000
通信費		49,959
消耗品費		49,790
2.管理費		
諸会費		30,000
事務委託費		1,500,000
雑費		14,342
	当期支出合計 (C)	3,124,925
	当期収支差額 (A)-(C)	-113,163
	次期繰越剰余金 (B)-(C)	-113,163

# 損失処理案

平成 27 年 3 月 21 日

(単位:円)

当期末処理損失	<u>113,163</u>
---------	----------------

これを次の通り処分する

次期繰越損失	<u>113,163</u>
--------	----------------

平成27年3月21日

日本ナレッジ・マネジメント学会  
第十八年度事業計画(案)

- 1, 年次大会の開催  
平成27年3月21日（土）専修大学神田キャンパスにて第18回年次大会を開催する。
- 2, 国際シンポジウムの開催  
平成27年12月上旬、早稲田大学キャンパスにて、WIC IとWICRSとの共催で、知的資本経営に関する国際シンポジウムを開催する。
- 3, 海外団体との協力  
平成27年9月、台湾台北にて開催される国際フォーラムに協力する。  
平成27年中、シンガポールにて開催されるKM関連団体の国際フォーラムに参加する。
- 3, 各研究会の開催  
リスクマネジメント研究部会（部会長：眞崎理事）  
東海部会（部会長：大西専務理事）  
知の創造研究部会（部会長：植木理事）  
ソーシャルメディア研究部会（部会長：山崎専務理事）  
組織変革実践研究会（部会長：高山理事）  
組織知の形成・持続研究部会（部会長：高山理事）  
ビジネスマネジャー育成研究部会（部会長：田中理事）
- 3, 理事会の開催  
年5回を目処に開催する。
- 4, 研究年報の発行  
年1回発行する。
- 5, メールマガジンの発行  
年12回程度発行する。
- 6, その他

平成 27 年 3 月 21 日

日本ナレッジ・マネジメント学会  
第十八年度収支予算（案）

収入の部					
会費収入	年会費	法人	24社		3,100千円
		個人	120人		960
		入会金	10人		50
			収入合計		4,110
支出の部					
1. 事業費		大会費			880
		3月年次大会講師謝礼	100		
		12月大会同時通訳費	580		
		12月大会海外講師招聘費	200		
		研究会費			640
		組織知の形成・持続研究部会	350		
		東海部会	120		
		組織変革実践研究会	50		
		知の創造研究部会	80		
		リスクマネジメント研究部会	20		
		ソーシャルメディア研究部会	20		
		学会誌発行費			600
		印刷費			50
		通信費			70
		旅費			240
					2,480 (A)
2. 管理費		事務委託費			1,500
		雑費			20
		予備費			100
					1,620 (B)
		支出合計			4,100 (A) + (B)
		収支差額			10
		前期繰越			-131
		次期繰越			-121